

清水会グループ
40周年記念誌

Seisuiikai Group 40th Anniversary

Anniversary

40th

医療と介護。

清らかな命の流れを、人に、そして地域に——

医療と介護を車の両輪に、
たゆみなき発展の軌跡を描いてきた40年の歴史と伝統。

今、新たな飛翔の時を迎え、私たち清水会グループは、
どこまでも、どこまでも、地域に愛され、地域に貢献する医療機関、
そして福祉施設でありたいとの願いを胸に、
精進を重ね、成長を期して参ります。

理 念

医療法人 清水会 (せいすいかい)

- 1) 私達は 医療、介護、福祉を通じ地域に貢献する。
- 2) 私達は 多くの方々に愛される施設をめざす。
- 3) 私達は 調和のとれた、豊かな人間性の育成に
つとめ、誇りと責任を持ち、日々研鑽を重ねる。

社会福祉法人 清水福祉会 (しみずふくしかい)

- 1) 私達は 介護、福祉を通じ地域に貢献する。
- 2) 私達は 多くの方々に愛される施設をめざす。
- 3) 私達は 調和のとれた、豊かな人間性の育成に
つとめ、誇りと責任を持ち、日々研鑽を重ねる。

そして、その未来へ。

CONTENTS

1 清水会の理念

40周年を迎えて

3 水野 郁子 医療法人 清水会 理事長

4 水野 智志 社会福祉法人 清水福祉会 理事長

祝辞

5 生野 弘道 守口市医師会 会長

6 伊佐 進一 衆議院議員

清水会の礎を築いた二人

7 水野 進 医療法人 清水会 初代 理事長のヒストリー

8 水野 信子 医療法人 清水会 第二代 理事長のヒストリー

清水会のあゆみ

9 創成期 ～地域貢献を夢みて～

11 発展期 ～新たな可能性を見つけて～

13 進展期 ～喜びが力に～

15 成長期 ～医療と介護の連携～

17 飛躍期 ～草創の精神堅持して～

トップ インタビュー

19 未来を語る 超高齢化社会のニーズに応える

21 地域へ貢献 様々なイベント行事を通じてわかったこと

私たちの清水会

23 鶴見緑地病院／ミズノ胃腸科・内科・外科

24 介護老人保健施設 おひさま園／森小路清水会クリニック

25 トム・ソーヤ 訪問看護ステーション／特別養護老人ホーム・養護老人ホーム さくら苑

26 ケアハウス鶴見緑地／さくら苑 デイサービスセンター太子橋

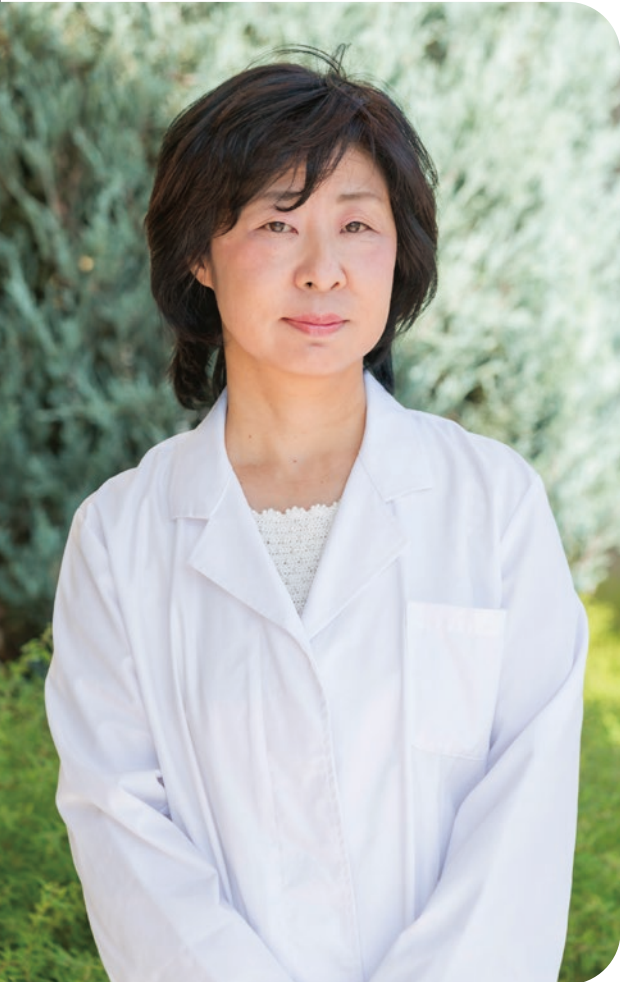
27 特別養護老人ホーム 城東こすもす苑／特別養護老人ホーム 鶴見緑地苑

28 サービス付き高齢者向け住宅 さくら／介護付き有料老人ホーム鶴見緑地

29 清水会の沿革

30 あとがき

清水会グループ 40周年を迎えて



医療法人 清水会 理事長

水野 郁子

清水会の記念誌を発刊させていただくにあたり、今日まで陰に陽に法人を見守り支え続けてくださった皆様に心から御礼を申し上げます。

前理事長の逝去にともない42歳で理事長に就任致しました。若くして重責を担ったことは、苦勞の連続ではありましたが、貴重な経験をさせていただき、身の財を積ませていただいた、かけがえのない日々であったと実感しております。

さて、我が国の医療制度は国際的に見れば、優れた制度ではありますが、少子高齢化の進行、疾病構造の変化、国民意識の変化、医療技術の進歩等、医療を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。特に、今後の超高齢化社会を迎えるにあたり、医療保険制度の持続可能性の確保が喫緊の課題であることはご承知のとおりです。昨年6月、一段と進む高齢化に備え、医療や介護の仕組みを見直す初めての総合的な法律として「医療・介護総合確保法」が成立しました。医療と介護の壁を取り去り、一人ひとりの自立を支える一体的で切れ目のない、効率的かつ効果的な多職種連携の生活支援サービスを提供する地域の構築を進めていく上において、私ども清水会の果たす役割が一段と重要になってきたと痛感しております。

今般、ミズノ胃腸科内科外科診療所を開設して以来今年で40年の歴史を刻むにあたり、記念誌を発刊いたしました。清水会40年の歩みを留めますとともに、ひとりでも多くの方にご高覧いただき、より一層のご指導ご鞭撻を賜りたく存じます。

最後になりましたが、皆様のますますのご健勝ご活躍をご祈念申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。



社会福祉法人 清水福祉会 理事長

水野 智志

昭和50年に大阪市旭区新森に、「ミズノ胃腸科内科外科診療所」を開設しましてより本年で40年の歴史を刻みました。さまざまな医療制度、介護制度の変革の中で、各施設が地域に根付き運営させていただいておりますのは、ひとえに地域の皆さまの絶大なるご理解、ご協力のお蔭であり、また行政および関係機関のご支援の賜物と、ここに厚く御礼申し上げます。

顧みますと、水野進先々代理理事長と水野信子先代理理事長夫婦が、診療所を立ち上げた時は、4脚ほどの椅子を置いたら一杯の小さな待合室しかない、無床の診療所でした。そこを起点に、人間味あふれる進先生と、常に進取の気概にあふれた信子先生の見事な二人三脚の戦いがあり、今日の発展の強固な基盤が築かれたものと信じてやみません。

清水会グループにとって、一つの大きな転機は老人保健施設「おひさま園」の開設にあったと考えられます。すなわち介護分野への参入です。先代理理事長の考えでもあったように、医療、介護は一体のものであり、地域貢献には欠かせない施設であります。またその考えをさらに押し進め、社会福祉法人の設立、「さくら苑」の開設により、グループの体制が確立されました。

また、時代のニーズは施設完結型から地域完結型へと、地域包括ケアの方向性が加速されております。その中であって、清水会グループはそれぞれの施設が相互補完しています。医療福祉複合体としての特性を生かし、地域医療、福祉に貢献していく決意です。

私ども清水会グループは、より一層、地域の皆さまに信頼され愛されるグループを目指して、職員一同心を一つにして励んでまいり所存です。どうぞ、今後とも旧倍してのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

40th Anniversary Message

祝辞



40周年を祝って。

守口市医師会 会長
生野 弘道

医療法人清水会・社会福祉法人清水福祉会の皆様、創立40周年、おめでとうございます。

医療法人清水会は、昭和50年に水野進先生と信子先生が旭区新森で診療所を開設されたことから始まります。次いで、昭和55年、守口市寺方に有床診療所(19床)を創られ、昭和58年、信愛水野会鶴見緑地病院(62床)となっています。昭和60年、医療法人清水会となり、現在の鶴見緑地病院(143床)の原形が出来上がりました。医療法人は、平成10年、旭区清水に老人保健施設おひさま園(91床)を開設、その後も介護施設や事業所を展開。直近の平成25年には、人工透析の森小路清水会クリニックが開院されています。

一方、社会福祉法人清水福祉会は、平成16年、特別養護老人ホームさくら苑(130床)の開設から始まり、平成23年度から一気に多くの介護施設や事業所を手掛けられ、守口市、旭区・城東区の各地域で医療・介護・福祉の複合経営を実践されています。

地域ごとに施設を見ますと、守口市には鶴見緑地病院(143床)、ケアハウス(74床)、特養・鶴見緑地苑(87床)の3施設は、国道163号線沿いにあり、効率的な複合経営が行われています。

旭区には「ミズノ胃腸科・内科・外科診療所」、「森小路清水会クリニック」(人工透析)のクリニックと訪問看護ステーション「トムソーヤ」があります。さらに、老人保健施設「おひさま園」(91床)、特別養護老人ホーム「さくら苑」(130床)、養護老人ホーム「さくら苑」(50床)、サービス付き高齢者住宅「さくら」(17床)など様々な機能を持った施設が揃

い、地域における医療・介護サービスは充実しています。

また、城東区には特別養護老人ホーム「城東こすもす苑」(81床)があり、大阪市内には特養が少なく、貴重な施設の一つとなっています。

守口市医師会は、昭和55年の「鶴見緑地病院」とのお付き合いから始まります。先々代の理事長水野進先生は物静かで温厚な先生であり、私は医師会の会合で幾度かお話をさせていただくようになりました。平成3年突然の訃報に接し、数日前に楽しく歓談させていただいていましたので、大変ショックでした。病院はどうなるのかと心配しましたが、奥様の信子先生が清水会を力強く、引っ張って行かれました。新しい施設が次々と出来上がるのを見るにつけ、その実力に驚かされました。平成18年、清水会の大黒柱である信子先生が逝去され、再びどうなるのかと心配しましたが、清水会はすでに強く、たくましいグループに成長していました。医療法人清水会を郁子先生が、社会福祉法人清水福祉会を智志先生がそれぞれ理事長となり、医療と介護・福祉の複合経営に磨きがかかり、その後も幅広く多種類の施設や事業所を開設され続けています。

「これからも地域ニーズに応じて様々な取り組みをやって行きたい」と話す前向きなお二人に、地域も大きな期待を寄せています。お二人を支える素晴らしいスタッフも、地域にとってはありがたい存在です。守口市医師会も、力強い清水会の皆様に、心から拍手を送っています。

清水会の益々のご発展を祈念し、お祝いの挨拶に代えさせていただきます。



地域包括ケアのモデルに。

衆議院議員
伊佐 進一

医療法人清水会、社会福祉法人清水福祉会の創立40周年の慶節を、心よりお祝い申し上げます。誠におめでとうございます。

水野進先生、信子先生が、まだ病床もない「診療所」を開設されたのは40年前。創立から現在に至るまで、貴会が一貫して大切にされていたのは、「地域の健康と安心の拠り所となる」という、「熱い思い」でありました。「診療所」を開設してわずか5年、昭和55年12月に、医療空白地となっていた守口市寺方の地に、現在の鶴見緑地病院の前身となる施設を開設されたのも、こうした「熱い思い」の表れであったと拝察いたします。

また、平成10年の段階で、すでに「介護事業」への参入を英断されていたことも、貴会の、「先見の明」の成したことでありました。社会保障の大きな課題として、医療と介護の連携について、政府や関係者の取り組みが活発となったのは、実は、ここ数年来のことです。ところが貴会は、すでに15年も前、介護保険制度も整っていない時代から、少子高齢化社会の到来を見据え、医療・介護の連携に「挑戦」を始められております。当時は、日本全体が、介護施設などに対して、まだまだ理解が深いとは言えない時代でした。老人保健施設の開設のために、地域住民の皆さんの理解を得るため、丁寧に足を運び、対話を重ねてこられたのは、信子先生でした。そのご苦勞がいかばかりであったかは、想像して余りあります。こうしたご尽力も、地域に対する強い責任感、使命感がなければ、できるものではありません。そしてまた、その責任感のゆえの、両先生の「先見の明」であったのだろうと、深く敬意を感じ

ております。

このように、40年前に興った水野進先生・信子先生の「熱い思い」を源流とする流れは、今や「大河」となりました。施設の規模、職員数、そして地域から寄せられる信頼など、あらゆる観点から、この地域に無くてはならない、医療・福祉の中核的なグループへと大発展を遂げられました。そしてこの流れは、創立50周年を目指し、さらに強く、大きくなっていくことでありましょう。

いわゆる団塊の世代が75歳を迎え、後期高齢者となる2025年を目指し、地域の医療と介護の連携をどうデザインしていくか。高齢者の皆様が、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けていくことができるため、「地域包括ケアシステム」をどう構築していくかは、それぞれの地域の実情に合わせ、地域が主体的に取り組んでいくことが重要です。

その構築にあたっては、貴会がこれまで地域において果たしてこられた役割や実績、そして40年間、脈々と受け継がれてきた、地域への責任感や理念を考えれば、貴会にこそ、そのリーダーシップを発揮してもらわなければなりません。いやそれ以上に、この大阪の、あるいは日本のモデルとなるような、大きな使命をこれからも果たして頂かなければなりません。改めまして、医療、介護政策に携わる者の立場から、貴会への大きな期待を申し述べさせていただきます。

今後の清水会、清水福祉会の益々の発展と、ご関係者の皆様のご健康、ご多幸をご祈念申し上げ、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

40th Anniversary Message

清水会の礎を築いた二人



医療法人 清水会 初代 理事長

水野 進のヒストリー (1930～1991)

水野 進は、大阪市福島区内で小さな書店を営む家庭の、三男一女の三男として生をうける。彼は、小学校時代の作文に、将来の夢として「医者になりたい」と記している。当時は、戦争色が濃くなる時代で、多くが軍国少年を憧れるなか、医者を目指す数少ない少年の一人であった。また、異国への憧れも強く、戦後の一時期、英語を身に着けるために、近隣のカトリック教会に通う積極性も持ち合わせていた。

進はその夢を追い続け、北野高校から大阪医大へと進学する。医大では外科を専攻した。阪大の法医学教室で学ぶ中、もう一つの夢の実現を模索する。実家への経済的な負担を考えると、これ以上のわがままを言える状況にはなかったが、夢は思わぬ形で実現する。医局の掲示板に貼られた「船医募集」の貼り紙であった。外国航路の船に乗れば世界に行ける。しかも医者の資格を生かすこともできる。進はこのチャンスを逃がさず応募、採用される。夢は大同海運コンテナ船の船医として実を結んだ。

船医は一般医として広く全般にわたる対応を求められる。救急蘇生術も必要であった。また、いろいろな国の感

染症も知識として持っていなければならない。ともかく、乗船しているすべての船員の健康維持が彼の双肩にかかっているといってよかった。

その後、船を降りた進は、外科医として大阪厚生年金病院の勤務医となる。この船医の体験が、後の地域医療を掲げる清水会グループの原点となるのである。地域医療の「かかりつけ医」としての位置づけが船医と重なる。進は船医の体験を通して、自らの医師としての方向性を確立していった。

後に、田中信子と結婚。地域医療の実現という夢に向かって共戦が始まった。昭和50年、森小路に念願の診療所が産声をあげる。さらに昭和55年には守口市に鶴見緑地病院の前身となる有床診療所を開設した。昭和57年には62床に増設している。今日の清水会グループへの発展の礎は、こうした二人の寸暇を惜しんでの取り組みで築かれた。進は61歳という若さで永眠したが、その草創の戦いの歴史は今も後進の心に深く刻まれている。



医療法人 清水会 第二代理事長

水野 信子のヒストリー (1935～2006)

水野信子は、田中家(旧姓)の8人兄妹の4女として大阪市港区で生まれた。戦前、父親は多角的な事業を手掛けた。商才にも恵まれ、商売は堅実に繁盛した。その努力もあって経済的には恵まれていたが、その豊かさを戦争が一変させてしまった。日々の食糧品を得るために、衣類等を携えて田舎に出かける生活が始まった。こうした現実が、幼い信子に与えた精神的影響は大きかった。

加えて港区は、国内外の海の玄関口であり、文化の異なる人の往来と、地域が醸し出す進取の風土があった。信子は、男女平等にもの言える職業に就きたいという夢を抱くようになっていった。

高校生になった信子は、その信念を貫く職業として、医師への道を選んだ。父は、現役で合格すれば医大進学を認めると言ってくれた。それからは、学校の行事そっちのけで勉強に打ち込んだ。その甲斐あって、大阪市立大学医学部に合格する。合格者40人中女性は信子を入れて4人だった。

医師への第一歩を踏み出した信子が将来構想として描いたのは「開業医」になることだった。インターンを終えて

阪大血液内科に入局する。時を同じくして進が阪大の法医学部に入局してくる。そこで、顔見知り程度だった二人を結びつけたのは、進の大学の恩師である。

信子は二人の子宝に恵まれる。(長女・郁子が医療法人清水会の第三代理事長)。そののち、念願の病院開業を真剣に考えるようになった。開業医としては小児科が欠かせないという信子の持論のもと、大阪市立桃山市民病院を経て、大手前病院に内科医として現役復帰する。さらに城北市民病院に移り小児医療に取り組んだ。両親に支えられた勤務時代を経て、小児医療にも自信がついたところで開業に踏み切った。昭和50年3月のことである。

40th Anniversary

創成期

昭和50年～昭和56年

水野進・信子夫妻の、「地域医療の中核病院を築いていきたい」との熱い思いの集大成への第一歩が踏み出された。

清水会のあゆみ



開設当時のミズノ胃腸・内科・外科診療所

旭区新森の地に白亜の診療所が誕生

昭和50年(1975年)3月、水野進、信子は、京阪森小路駅より徒歩1分の地に「ミズノ胃腸科・内科・外科」を開設した。地域医療に熱い思いを抱いていた二人にとって、記念すべき第一歩であった。

開設に臨み、二人は、場所選定に時間をかけた。当地は、千林商店街に隣接し、庶民の街であること。進の

実家が所有する土地があったことが大きな決め手となった。

ミズノ胃腸科の初代院長は信子である。当時、進は外科医長として厚生年金病院に勤務していたため、信子の開業にあたり、夜診を担当し外科の診療を担当した。

信子は、地域のかかりつけ医となるために、開業前の数年間、小児科医

として城北市民病院に勤務した。開業当初より、小児科、内科を主とする、地域でも評判の診療所へと成長していった。

診療所が軌道に乗る中、進は次の夢の実現を考え始める。「外科医として、自分の病院で手術をしたい」。そんな折り、守口市南寺方に売り物件が出た。旭区の高殿、太子橋等々の



社会の流れ

昭和50年

天皇后両陛下日米国交史上初訪米
沖縄海洋博開幕
山陽新幹線岡山博多間開通
国保：高額療養制度の完全実施

昭和51年

健保法改正施行(7月)
新幹線こだま号禁煙車登場
ロッキード疑惑田中元首相逮捕

昭和52年

初の静止気象衛星「ひまわり1号」打ち上げ
有珠山大爆発

昭和53年

ショートステイ制度化
成田空港開港
不況でサラ金地獄

昭和54年

第一回東京国際女子マラソン
第二次オイルショック
デイサービスの制度化

昭和55年

衆参同時選挙中、大平首相急死

昭和56年

チャールズ皇太子・ダイアナ嬢世紀の結婚
福井謙一ノーベル化学賞受賞
米スペースシャトル「コロンビア」打ち上げ成功
中国残留孤児親探し初来日
国際障害者年



鶴見緑地ミズノ胃腸内科・外科
(開設当時の鶴見緑地病院(写真左)と正面玄関(写真下))



開業候補地の中から、ミズノ診療所との距離感、医療の“空白地域”であることから絶好の開設地であると判断した。なぜここに？と疑問視する向きもあったが、意を決して進出を決めた。昭和55年12月、わずか19床の有床診療所が開設された。進50歳の冬

のことである。

有床診療所開設後の進は、まさに不眠不休で診療所の運営に取り組む。昼夜を問わず診療に明け暮れる進を、運営面でサポートしたのは信子と、当時、総務、経理を担当していた後藤裕子(信子の実妹)である。



旧鶴見緑地病院の待合室

発展期

昭和57年～平成8年

何事を成すにも“地の利”が重要である。守口市寺方の地に進出したことが、その後の大きな発展につながっていく。



手術中の水野進ドクター



旧鶴見緑地病院の増築工事



リハビリ室

水野進の逝去と、遺志を受け継ぐ戦い

多大な努力の甲斐があって、昭和57年12月には、隣接する倉庫と駐車場を購入して診療所を拡張、19床から62床に増設。翌58年2月に「信愛水野会鶴見緑地病院」と名称を変更。「信愛」を冠した理由は、進が中学生時代、英語学習で通ったキリスト教会内で聞いた「信仰と愛」に心地よい響きを感じた記憶と、「愛と奉仕の精神」で肉親に対するような愛の心で医療に向かおうという思いと、開業以降、数年来にわたる信子にかけた苦

労の償いとして「信子を愛する」という思いを顕わしたものである。

次に、法人格取得に取り組むことになる。病院名に「鶴見緑地」を使うことは、診療所開設以来の名称であり、地域に浸透していることもあって、関係官庁の了解を得ることができた。かくして、昭和60年4月、「医療法人 清水会 鶴見緑地病院」が誕生した。

進の突然の死により、法人はやむを得ず新体制のスタートを切ること

になる。平成3年1月、信子が医療法人清水会理事長兼院長に就任。水野智志が副院長に就任。水野郁子（進夫妻の長女）がミズノ胃腸科・内科・外科の院長に就任した。智志は大阪医大病院、郁子は国立大阪病院を急遽退職しての就任であった。それともう一人、忘れてはならない人がいる。大阪医大で進の後輩であり、智志の先輩に当たる永見義隆医師である。智志は述懐する。「本当に面倒見の良い先生で、患者さんからも看護婦



当時の鶴見緑地病院

さんからも慕われていました」。平成18年に逝去するまで、外科部長として、副院長として、陰に陽に支えていった。

平成3年から平成8年までの6年間は一見動きが無いように見える。しかし、一般病棟のみの体制から療養型病床を立ち上げ、ケアミックスへの転換。看護部としては、付き添い看護婦を廃止し、新看護体制への移行等、体制面でのさまざまな改革が行われていく時期であった。

昭和56年から始まった「大阪の多面的な改革」のための協議が進む中で、「大阪21世紀計画」が策定され、その一環として、鶴見緑地で国際博覧会が開催されることが決まった。当初は国内博覧会の予定であったが、「花と緑の博覧会」と銘打ち、国際行事として開催されることになった。俄然、診療所の周辺が騒がしくなった。インフラ整備が始まり、道路が整備され、交通機関が鶴見緑地公園を中心に展開されていった。

社会の流れ

昭和57年

東北上越新幹線開業
老人保健法制定

昭和58年

東京ディズニーランド開園
国債障害者の10年

昭和60年

青函トンネル貫通
年金制度改正(基礎年金導入)

昭和61年

高齢者等雇用安定法

昭和62年

利根川進ノーベル生理学賞受賞
バブル景気始まる

昭和63年

青函トンネル開通

昭和64年・平成元年

天皇崩御 平成に改元
消費税法施行(3%)

平成2年

今上天皇即位の礼
大阪市で花博開催

平成3年

湾岸戦争勃発
バブル景気崩壊

平成4年

PKO協力法成立
学校週休二日制始まる

平成5年

皇太子結婚の儀

平成6年

松本サリン事件
関空開港

平成7年

阪神淡路大震災
地下鉄サリン事件

進展期

平成9年～平成14年

新たな事業展開を目指しての戦いが始まった。介護事業への進出に向けて、水野信子理事長が、推進の先頭に立って奮闘。

清水会のあゆみ



鶴見緑地病院デイケアの浴室



鶴見緑地病院の病室

おひさま園



おひさま園のダイルーム



おひさま園の浴室

老人保健施設「おひさま園」が開設

法人名に「清水」を使うことは、今は小川であっても、必ず大河と変わる日が来る。その時も、流れる水は清水でなければならない。そのような思いが込められた名称であった。

さて、進展期の開始である。伏流が地表に姿を見せる時を迎えた。智志は副院長として病院運営に当たる中で、若い世代の医師たちが集う青年部会に出席してさまざまな情報を

入手した。老人保健施設の話もその一つであった。法人内の賛同も得て、平成10年7月、法人として最初の介護施設である医療法人清水会老人保健施設「おひさま園」(91床)が、旭区清水に開設された。

旧三洋証券の社員寮だった建設予定地は、住宅地域の中にあり、地域の住民にとっては老人保健施設に対する理解はなかった時代。地域住



鶴見緑地病院

社会の流れ

平成9年

消費税率改定(3%→5%)
臓器移植法成立
介護保険法成立
国民健康保険法改正 本人自己負担1割から2割に

平成10年

長野オリンピック開催
明石海峡大橋開通
完全失業率急上昇
介護保険法成立(2000年施行)
地域医療支援病院を創設
ゴールドプラン21策定

平成11年

国旗国歌法・通信傍受法成立
情報公開法・周辺事態法成立
国際高齢者年

平成12年

社会福祉法へ法名改正
児童虐待防止法制定

平成13年

アメリカ同時多発テロ事件
皇太子夫妻長女・愛子内親王誕生
ユニバーサル・スタジオ・ジャパン開園
厚生労働省発足

平成14年

小泉純一郎首相平壤訪問
住民基本台帳ネットワークシステムスタート
健康増進法

民にその必要性や、地域貢献になることを説明するために、連合町会や地元町会への説明会は十数回に及んだ。信子理事長自ら、連日、近隣の住民宅を訪問して、施設開設の意義を説明し、理解を求めに回った。この努力あつての開設であつた。

平成12年には介護保険制度開始に伴い、介護老人保健施設「おひさま園」に名称変更した。その後、「居宅

介護支援センター」、「訪問介護センター」、「訪問入浴センター」開設と事業が展開されていく。なお、前年の平成9年2月には、医療法人清水会「トム・ソーヤ訪問看護ステーション」を開設している。

一方、「鶴見緑地病院」においても、この時期、大きな変革の動きがあつた。旧館は既存の建物を転用しての開設であつたため、建て替えの必要

が生じていた。建て替えに当たって、国の近代化事業を活用し、補助金を受けて建て替えた。補助を受けるために病床を減らす必要があり、その結果143床に。一階に広いリハビリ室を設け、上階に回復期リハ病棟を。その後、「通所リハビリセンター」開設と続く。「鶴見緑地病院」は、地域の中核病院としての体制を整えていった。

成長期

平成15年～平成22年

水野信子理事長の逝去に伴って、医療法人、社会福祉法人の運営の一切が水野智志、郁子夫妻の双肩に委ねられることに。



さくら苑の全景

「医療と介護の連携」の理想的な形態に

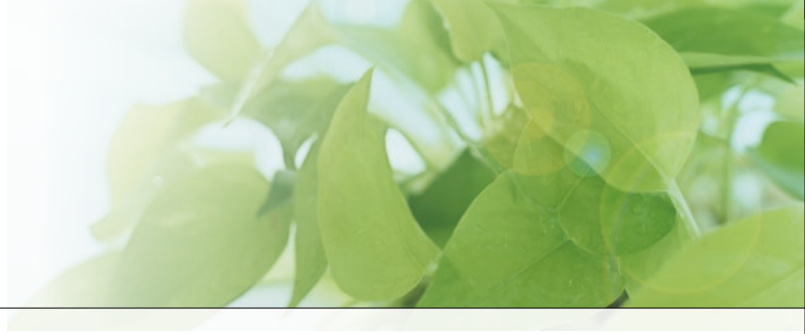
平成15年、社会福祉法人「清水福祉会」の設立をもってこの期が開幕する。

最初の事業は「特別養護老人ホーム さくら苑」(130床)、「養護老人ホーム さくら」(50床)の開設であった。「さくら苑」の建設予定地は、戦前からの小学校の跡地であり、小学校移転後は、清水会館として広く利用され、地域の人々にとっては思い入れの

ある土地であった。そのため、法人に対する地域住民の要望も強く、連合町会や地元町会との話し合いは連日開かれ、地域に開かれた施設の基礎が作り上げられた。施設建設の公募に当たって20社を超える応募があり狭き門であったが、地域での「おひさま園」の堅実な運営が評価されて狭き門をくぐりぬけることができた。

平成16年4月のことである。

「さくら苑」の開設を機に、「居宅介護支援センター」開設、「老人デイサービスセンター旭東地域在宅サービスステーション旭さくら苑」開設、「旭東地域在宅サービスステーション」開設、「さくら苑診療所」開設。翌平成17年には、「社会福祉法人清水福祉会清水訪問介護センター守口」開設(2月)、



社会の流れ

平成15年

イラク戦争勃発
個人情報保護法成立
少子化社会対策基本法成立

平成16年

イラク日本人人質事件
年金未納問題

平成17年

愛知万博開催
JR福知山線脱線事故
郵政民営化関連法成立
郵政民営化(JPグループ発足)
年金記録漏れが5千万件判明

平成20年

北海道洞爺湖サミット
ガソリン価格リッター180円台に
後期高齢者医療制度がスタート

平成21年

新型インフルエンザが猛威をふるう
裁判員制度始まる
足利事件でDNA鑑定に誤りが判明し菅家さん釈放

平成22年

惑星探査機はやぶさ帰還
九州南部で口蹄疫感染広まる
根岸英一・鈴木章ノーベル化学賞受賞
観測史上最高の猛暑(6~8月)



ケアハウス

「さくら苑配食センター」開設(4月)と新規開設が続く。平成18年になると、鶴見緑地病院、おひさま園、さくら苑にて介護予防事業開始(4月)、「守口第6地域包括支援センター」開設と、新規事業の開設が続いた。

この年、信子理事長の逝去にともない、智志が社会福祉法人清水福祉会の理事長に、郁子が医療法人清水

会の理事長に就任し、事業の運営を担っていくことになった。この時点から清水会グループの歴史は新たな段階に入る。

「さくら苑」の経営が軌道に乗り、安定飛行の目途が立った時点で、平成19年8月、守口市内、鶴見緑地病院の隣地に社会福祉法人清水福祉会「ケアハウス鶴見緑地」を開設。これ

が新体制によって、推進された最初の事業になった。

超高齢化社会を迎え、医療と介護の連携は、ますますその必要性が高まっている。その点、医療機関と介護施設を併せ持っている清水会グループは理想的な形態になってきている。利用者や入所者にとって大きな安心感を与えている。この特徴は大きい。

飛躍期

平成23年～平成27年

地域に愛される医療機関、そして福祉施設へ——創設の理念を堅持しつつ、超高齢社会の明日を見据えて着実な発展が続く。



さくら苑 デイサービスセンター太子橋



こすもす苑の全景

地域に愛され、貢献する清水会を目指して

無床の小さな診療所を振り出しに、成長発展を遂げてきた清水会。かけがえのない人の生命にかかわっていくという崇高な使命をもって展開してきた40年であった。40年の歳月を経て、医療法人清水会傘下の施設が5施設、社会福祉法人清水福祉会傘下の施設が7施設という大樹に育った。安定と充実への道は、地道な努力の積み重ねによって開拓されてきた。いかに大きくなっても継承されていかなければならないのが草創の精神である。平成23年、清水会グループは、これまで標語的なものでしかなかった経営理念と経営目標を明文化し、法人の行動規範を明確にした。コーポレートスローガンと医療法人清水会並びに社会福祉法人清水福祉会の理念がそれである。

医療法人清水会の理念

- 1) 私たちは 医療、介護、福祉を通じ地域に貢献する。
- 2) 私たちは 多くの方々に愛される施設を目指す。
- 3) 私たちは 調和のとれた、豊かな人間性の育成につとめ、誇りと責任を持ち、日々研鑽を重ねる。

社会福祉法人清水福祉会の理念

- 1) 私たちは 介護、福祉を通じ地域に貢献する。
- 2) 私たちは 多くの方々に愛される施設を目指す。
- 3) 私たちは 調和のとれた、豊かな人間性の育成につとめ、誇りと責任を持ち、日々研鑽を重ねる。

地域に愛される法人となるべく鋭意努力を重ねてきたが、今まだその道半ば。見据えるその未来。法人の

決意を込めたコーポレートスローガンに言う。「医療と介護。そして、その未来へ」。医療と介護——これは切り離せないテーマであり、その未来に向かって着実な進展を目指す法人の心意気が込められている。

平成23年8月「さくら苑デイサービスセンター太子橋」開設。

同9月「特別養護老人ホーム 城東こすもす苑」開設(ユニット型81床)。

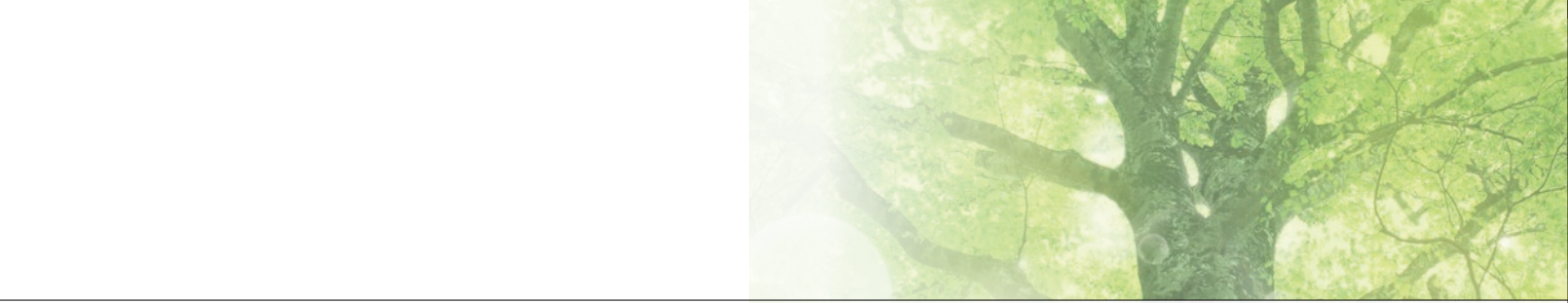
同11月「特別養護老人ホーム 鶴見緑地苑」開設(ユニット型87床)。

平成24年12月「サービス付き高齢者向け住宅さくら」開設(17床)。

平成25年1月「森小路清水会クリニック」開設(人工透析31床)。

平成26年4月「介護付き有料老人ホーム鶴見緑地」開設(90床)。

平成27年12月には守口市橋波に



特別養護老人ホーム 鶴見緑地苑全景



介護付き有料老人ホーム 鶴見緑地全景

大規模デイサービス「鶴見緑地病院
橋波リハビリセンター」がオープン予
定。また、翌28年9月には、旭区さくら
苑の隣地に仮称「小規模多機能型居
宅介護 さくら」が開設する予定に
なっている。

森小路清水会クリニック全景



社会の流れ

平成23年

東日本大震災発生
福島第一原発事故発生
九州新幹線全線開通
外国為替市場円最高値75円31銭記録

平成24年

東京スカイツリー開業
尖閣諸島国有化
ロンドン五輪でメダル最多の38個
山中伸弥ノーベル医学賞受賞
東京電力を実質国有化
第二次安倍内閣発足

平成25年

富士山世界文化遺産へ登録
ユネスコ 和食が無形文化遺産に登録
政府「骨太の方針2013」と「日本再興戦略」発表
2020夏季五輪が東京に決定
特定秘密保護法が成立
日本初参加のTPP交渉会合
大手ホテル等で食品偽装問題が判明

平成26年

あべのハルカス開業
消費税率改定(5%→8%)
集団的自衛権行使容認
富岡製糸場世界遺産登録

平成27年

大阪都構想是非問う住民投票実施
安全保障関連法案が可決成立

40周年の佳節を迎え、初代理事長、 第二代理事長の遺志を受け継ぎ、 さらなる発展を目指す。

後継の二人の理事長に、清水会グループの発展の歴史と未来への希望を語ってもらった。

40周年おめでとうございます。まず、
現在のお気持ちをお聞かせください。

水野(智)●アッと言う間の40年だった
ような気がします。もっとも、私に
とっては、平成3年からの24年間の
かわりですが、先々代・進先生、先代・

所を、私が鶴見緑地病院を引き継い
でのスタートでした。

水野(郁)●若くして、ある意味、やむ
なくバトンを受け取りました。医師会
ではベテランの医師達に交わって、
戸惑うことばかりでした。夢を抱く
というような心境ではなかったですね。

「いつも謙虚であれ」と諭して下さい
ました。信子先生にお世話になった
のですが、その日々を今思い出して
も胸が熱くなり、こみ上げるものが
あります。先生から、医療技術とい
うよりも、医者としての姿勢やあり方
を数多く教えていただきました。その
意味で、義理の母というより人生の
先輩、良き指導者と弟子といった関
係でした。

水野(郁)●父のことで思い出すの
は、「お医者さんらしい人」だったとい
う印象です。こんな姿を覚えていま
す。診療時間が終わって、散髪に行
っていた。そこに、「患者さんが来院し
ているがどうしましょうか」と連絡が
来た。すぐさま散髪を中断して病院に
駆け戻り診察を終えて、また散髪に
行きました。

母は私にとっては厳しくも優しい人
でした。よく言われたことは、「患者
さんから頼まれたことは、その場で動い

超高齢化社会のニーズに対応 発展の基盤に質的向上を堅持

医療法人 清水会 理事長

水野郁子

信子先生が頑張ってレールを敷い
て、幹部職員の人材を育て、しっかり
した企業風土を作ってくださったか
ら今日がある。私たちは、先々代、先
代の業績を引き継いで、なんとかそ
のレールに乗ってやっているというの
が正直な思いです。

初代理事長が逝去された時(平成3
年)は、大阪医大で勤務医として働
いているときでした。急きょ呼び戻
されたのですが、文字通りおっとり
刀で駆けつけたという感じでした。
信子先生が頑張っておられたので、
その指導の下で、郁子理事長がミ
ズノ診療

多くの方にお力添えをいただき、支
えていただいたお蔭で現在がありま
す。今振り返ってみると、さまざまな
苦労が思い出されますが、その苦労
が全部、貴重な財産となって生か
されていると実感します。

お話を伺っていると、初代・進理事
長、第二代・信子理事長への熱い
思いや感謝の気持ちが伝わってき
ます。どのような方々でしたか。

水野(智)●私は、進先生とは1年と少
しの短い間でしたが、多くのこと
を学ばせて頂きました。若かった二
人に、



あげなさい」と。目の前で行動することの大切さを教えられました。

小さいころから、医者としての厳しさ、病院を経営する大変さを目の当たりにしてきましたから、医者になることは正直気が進みませんでした。無言の重圧とでもいうのでしょうか。母にはイヤとは言えませんでした。

現在の規模に至るには、いくつもの節目というか、転換期があったのではないのでしょうか。

水野(智)● その通りです。一つは、平成10年の「おひさま園」開設ですね。鶴見緑地病院一本でいこうか他にも展開していこうかという岐路に立っていた時です。当時、若手医者の青年部会がありました。様々なテーマを議論する場でしたが、テーマの一つに老人保健施設がありました。時代の動向を読んで方向を決めていくべきだと感じてました。老人保健施設に対する理解がまだ無いころでした。旭区清水に建設を決めたものの、地域住民の方々の了解を取るのが大変な苦勞でした。

水野(郁)● 信子理事長が先頭に立って地域にとって大事な施設であることを説明して回ってくれたのを覚えています。当初の4月開設予定が7月にずれ込みましたが、この地に定着するためには丁寧な説明が必要と

感じて誠意をつくしました。

もう一つの転換点は、平成15年に社会福祉法人を取得したことです。新たな老人福祉施設を作るにはどうしても社会福祉法人格を取得することが必要でした。3月に社会福祉法人清水福祉会を設立することができました。「特別養護老人ホーム さくら苑」の建設予定地には、清水会館として地元の方々が使っておられた建物がありました(元は清水小学校)。地域の人にとっては思い入れのある土地でしたが、老人福祉施設を建設することになって、20社ぐらいが手を挙げたでしょうか。幸いに清水福祉会が選ばれ、翌平成16年4月にさくら苑を開設することができました。この折り

ようになって来ました。そのため、患者様の回復のための達成目標を患者、関係者双方が共有し、切れ目のないサービスを提供するため、より一層患者様本位の視点に立ち、回復過程に沿ったサービスの体系化が必要です。リハビリテーションを核とする地域の施設をつなぐネットワーク作りが課題と考えています。

病病連携、病診連携はますます重要度を増してきております。

地域の方々からも、連携施設からも信頼される病院、施設として更に成長するよう努力していきたいと考えています。

水野(郁)● 超高齢社会を目前にして、法人としてはさらにさらに質を高

先代理事長に学んだ人生のあり方と医師としての基本姿勢

社会福祉法人 清水福祉会 理事長

水野智志



も、近隣10町会を、回って地域に役立ちたいとの思いを込めて、施設の説明をしました。

常に、地域に信頼される病院・施設を目指してこられました。これからもその基本理念に沿って進んでいかれると思いますが、将来構想をお聞かせください。

水野(智)● これからますます機能分化が進んでいくと思います。

近年、医療環境の変化により、ひとつの病院では治療は完結せず、回復過程に沿って必要なサービスを受ける

めて、さまざまなニーズに応えられる力を養い、地域に貢献していきたいと思っています。まだまだレベルは十分とはいえません。地域のニーズに応えたい。職員の皆さんにとっても安定した働きがいのある職場にしていきたいと考えています。法人として規模を拡大することもあります。それよりも、内部のソフト面を充実させていきたい。法人としての在り方は確立されつつあります。それを単に踏襲するのではなく、時代の変化を見すえて常に進歩していかなければならないと考えています。



地域に貢献する施設でありたいとの願いのもと 地域発展の核としての役割を果たしていきます。

施設の制度等で、「地域」という言葉に触れないことがないほど、「地域」は日常化された言葉です。社会福祉法人清水福祉会の水野智志理事長は、折りあるごとに「法人(の各施設)が今あるのは、ひとえに地域住民の皆さまの温かいご支援の賜物であり心より感謝申し上げる次第です。これらの諸施設を通して、地域の皆さまの安心と安全に資することができればこれにすぎる喜びはございません」と、地域あつての清水会であることを語っています。

振り返ってみれば、「おひさま園」の開設や、「さくら苑」の開設にあたって、故水野信子先代理事長が、近隣のご家庭や、地元町会を回って、施設建設の意義を説明して回る中で強調していたのも「地域に貢献する施設でありたい」ということでした。後に、そ

の思いを表現したのが清水会グループの「理念」の、「医療、介護、福祉を通じて地域に貢献する」との一項目です。

具体的な活動として、施設職員有志で結成している踊りの同好会の秋祭りや地域のイベントへの出演、さらには、各種講習会の開催等さまざまな形で展開しています。一方、地域交流は、地域交流スペースといった、地域の住民が集いの場として利用できる施設の設置、施設の利用者や入居者との触れ合いのための外部ボランティアの訪問受け入れなどがあります。こうした地域交流の持つ意義は、施設の利用者や入居者の地域参加の推進につながるとともに、施設の運営に地域住民の協力が得やすくなるということにあります。こうした地域貢献

の活動状況は、広報誌「せいすい」やホームページを通して、広く地域住民の皆さまの元にも届けられています。

医療法人清水会の水野郁子理事長は「超高齢社会を迎え、法人のレベルをさらに高めて、地域の皆さまからのさまざまなニーズにお応えできるようになりたい。また、地域の皆さまとの交流も、いろんな行事やイベントなどを通して積極的に推進し、地域の核としての清水会の役割を果たしていきたい」と語っています。



海坊主 カリホ 沖縄エイサーをにぎやかに披露

地域の祭りやイベントで、沖縄舞踏「エイサー」(本土の盆踊りにあたる沖縄の伝統芸能)を披露して好評を博しているグループがあります。奄美出身の三島勇作介護科長(有料老人ホーム鶴見緑地)が施設行事を企画する中で「沖縄舞踏が踊れますよ」

と言ったのがグループ結成のきっかけ。自分も踊りたいという職員が一人、二人と集まって、6年前にグループを結成。今では20人のメンバーに。太鼓のリズムに乗って踊る郷土色豊かな踊りに「また来年も来てや」と地域の反響は上々。



AED講習会(おひさま園) 旭消防署員の指導で実技演習

AEDの普及が進む一方で、AEDは知っているけど使い方がわからないといった声が聞かれる。実際、緊急時に使用された例は少ないという報告もある。そうした疑問に答えようと、地元町会の皆さまに集まってもらい「AEDセミナー」を開催したのが「お

ひさま園」。旭区の消防署員による模範実技や参加者による実技演習が行われました。町会長さんからは「日ごろから、おひさま園さんには何かと町会にご協力いただいております。大変感謝しています」との謝辞もいただいています。



いきいき百歳体操(おひさま園) 音楽に合わせて手足の運動

森小路清水会クリニックを会場に、定期的に行われているのが「いきいき百歳体操」。これは、重りを使った筋力運動の体操。重さ0kgから2.0kgまで、10段階に調整可能な重りを手首、足首に巻き付けて椅子に座り、ゆっくり手足を動かします。これには、

施設の入居者や近隣のお年寄りが集まって音楽に合わせて体操しています。毎回参加しているというご婦人は「体力がついて体が軽くなりました。こんな企画はありがたいです」と語っています。



家族介護教室(鶴見緑地苑) 介護予防・運動と食事をテーマに

鶴見緑地苑では、ご家庭で健康に暮らしていただけるために、との目的で、介護予防、運動と食事をテーマに「家族介護教室」を開催し、地域の多くの参加者を得て行われています。教室では、介護予防トレーニング、デイサービスでの治療食の紹

介、全身筋肉量測定など、家族介護に欠かせないテーマを選んでの講習に、地域の参加者の皆さまからは、大変参考になると喜びの声が寄せられています。



遊クラブ(さくら苑・さくら苑太子橋) 歌や体操、物作りで楽しいひと時

「さくら苑居宅介護支援センター」と「さくら苑デイサービスセンター太子橋」の共催で、だれでも自由に参加できる「遊クラブ」を行っています。これは、地域に根差した施設づくりの一環として、近隣の方々に交流の場を提供したいとの思いからス

タートしたもの。一緒にお話をしたり、体を動かしたり、物作りをして楽しめようと呼びかけて開催。体操教室やちぎり絵を楽しんだり、音楽を聴いたり、ひと時“遊ワールド”に時の経つのを忘れて楽しんでいます。



認知症サポーター養成講座(守口第6地域包括支援センター) 認知症への理解を深めよう

オレンジリング——認知症サポーター養成講座受講した人に授与している腕輪サイズのオレンジ色のリング。講座では、認知症についての理解、認知症の人と接する時の心構え等を学ぶ。他に、健康体操や脳の活性トレーニング等も織り交ぜて、充実した講座となっ

ています。平成25年からこの講座を始めて、395人にリングを授与してきました。平成26年は5月に2回、7月に1回講座を開いて197人が受講。「このリングを持つ人をどんどん増やしていきたい」と守口第6地域包括支援センター看護師の寺坂昌枝さんは語っています。



南地区社会福祉委員会・守口第6地域包括支援センター 盛大に第6回秋祭りを開催

各施設の入居者の皆さまとご家族、そして地域住民の皆さまが心待ちにしている伝統行事の「秋まつり」が、南地区社会福祉委員会と守口第6地域包括支援センターの主催、南町会はじめ5町会、日光ハイツ、鶴見緑地病院、ケアハウス鶴見緑地、介護付き有

料老人ホーム鶴見緑地が協力機関となって、平成26年9月21日、鶴見緑地病院1階およびケアハウス鶴見緑地駐車場を会場に、盛大に開催されました。今回で6回目を迎えた「秋まつり」は、地域住民の皆さんとの友好を一段と深める意義深い催しとなりました。





医療法人 清水会

鶴見緑地病院



地域の中核病院としての使命

豊かな緑と四季折々の美しい花々、そして新しい息吹を感じる花博公園。この都心のオアシスに開院以来、医療のバイオニアとして地域住民の皆さまのお役に立てるように努力を重ねてきた「鶴見緑地病院」。現在、急性期30床・地域包括ケア24床、回復期リハビリ病棟89床を有し、地域のシームレスな医療連携に貢献しています。これからも、地域の中核病院として、心の触れ合いを大事にしながら明るい病院作りに励んでいきます。



1.5テスラMRI



亀岡事務長

ミズノ胃腸科・内科・外科



清水会グループ原点の診療所

清水会グループの原点となった医療機関が「ミズノ胃腸科・内科・外科」です。家族的な雰囲気にあふれた、文字通り「地域のオアシス」といった診療所です。中心になって働いている看護師さんは、勤続30年近い人や20年を超える人で、患者さまから慕われ、地元旭区はもとより、鶴見区や守口市からも来院される方が多くいます。医師、看護師、リハビリスタッフ、事務スタッフが一体となって医療を展開しています。



受付の風景



リハビリ室(二階)

介護老人保健施設 おひさま園



家庭的な環境の中で介護、リハビリ

「介護老人保健施設 おひさま園」では、看護や介護を必要としている方に、明るい家庭的な環境の中で介護やリハビリテーションを、入所または通所の形で受けていただけます。そして、より早く、明るい家庭生活へ復帰できることを目指し、地域やご家庭と密接な連携を図りながら、皆さまのお手伝いをさせていただいています。ショートステイ、デイケアのほかに、訪問リハビリ、居宅介護支援センター、訪問介護センターなどもあります。



詰所



吉岡施設長(右)と澤田事務長



玄関

森小路清水会クリニック



最新鋭の透析関連機器を導入

安心・安全を追求した透析医療トータルシステムの「清水会クリニック」は、最新鋭の透析関連機器を導入した透析施設として、経験豊富なスタッフが真心こめて患者さまの状態に合わせた的確な治療をご提供しています。また、当クリニックでは、介護施設やサービス付き高齢者向け住宅からの通院透析を積極的に受け入れています。そして、清水会グループ関連の医療・介護施設との連携で、安心・安全の医療の提供に努めています。



透析室



待合室



白川事務長



トム・ソーヤ訪問看護ステーション



在宅療養の心強いパートナー

訪問看護ステーションとは、医療保険・介護保険に基づいて、かかりつけ医師の指示により、ご自宅に看護師が訪問し、看護サービスを提供し、在宅療養をサポートする制度です。トム・ソーヤでは、在宅療養の心強いパートナーとして、介護する方の負担を軽減するために、看護に関するあらゆるご相談をお待ちしています。医療法人清水会がバックアップしています。



スタッフ一同



玄関

社会福祉法人 清水福祉会

特別養護老人ホーム・養護老人ホーム さくら苑

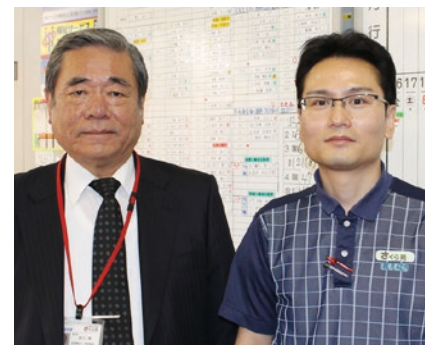


介護と医療の安心のサポート

特別養護老人ホーム・養護老人ホーム「さくら苑」は、各種専門スタッフが力を合わせて、介護、医療の両面から、安心のサポート体制で、心から喜んでいただける生活空間を提供させていただきます。養護老人ホーム定員50名、特別養護老人ホーム定員120名、ショートステイ定員10名、デイサービス定員55名と各サービスご利用の皆さまが、「生きがい」を持つ喜びを感じていただけるよう、真心こめて取り組んでいます。



養護老人ホーム 榎野施設長

特別養護老人ホーム
西川施設長(左)と霜村課長

中庭



居室(4人部屋)

ケアハウス鶴見緑地

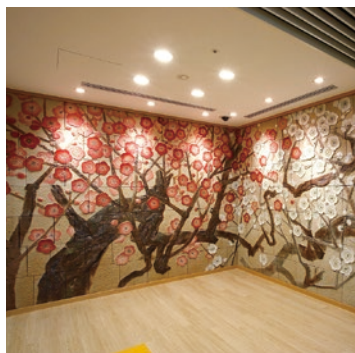


介護保険特定施設の認可受け

「ケアハウス鶴見緑地」では、従来のケアハウスが身体機能の低下が高度になると、退去の対象になったのに対して、介護保険特定施設の認可を受けているので、重度要介護者にも対応できます。また、関連医療機関に隣接しており、医療ニーズにも十分な対応が可能です。毎日を快適に過ごしていただける、きめ細かいサービスを提供し、「生きがい」を持つ喜びを感じていただけるよう、誠心誠意取り組んでいます。



辻施設長(右)と住田課長代理



ロビーの陶板画



居室

さくら苑デイサービスセンター太子橋



マンツーマン体制でケアに

「さくら苑デイサービスセンター太子橋」は、マシンとスリングトレーニングを中心に、利用者さまの個々の状態・状況に合わせたプログラムを作成し、マンツーマン体制でリハビリを行うことによって、機能の向上と動作改善を目指しています。スタッフ一丸となって地域貢献を合言葉に、皆さまに愛されるデイサービスセンターの運営に取り組んでいます。



パワーリハビリ器具



リハビリ風景



特別養護老人ホーム 城東こすもす苑



全室個室・ユニットケアを採用

「特別養護老人ホーム城東こすもす苑」は、特別養護老人ホーム72床、ショートステイ9床の施設です。のんびりとバスタイムを楽しめる大浴場や、特浴(マルチリフター設備、介助入浴)、あるいは楽しいひと時を過ごしていただける共同生活室などを完備。当施設は、入居者さまの個性を大切にしながらも、家庭的な雰囲気の中で生活を送っていただけることができるように、全室個室・ユニットケアを実施しています。



共有スペース



富田施設長(右)と藤原課長代理



ロビー

特別養護老人ホーム 鶴見緑地苑



各種専門スタッフが力を合わせ

「特別養護老人ホーム鶴見緑地苑」は、各種専門スタッフが力を合わせて、介護、福祉の両面からのサポート体制で、心から安心していただける生活空間となっています。当施設では、一人一人の個性を大切にすることを第一に考えて、全室個室・ユニットケアを採用しています。入居者さまは、家庭的な雰囲気の中で日々を送っていただくことができます。また、デイサービスセンターを併設しており、地域の方々に、より一層身近なおつきあいをさせていただきたいと願っています。



共有スペース



菊野施設長



居室



デイルーム

サービス付き高齢者向け住宅 さくら



バリアフリー構造で安心の住宅

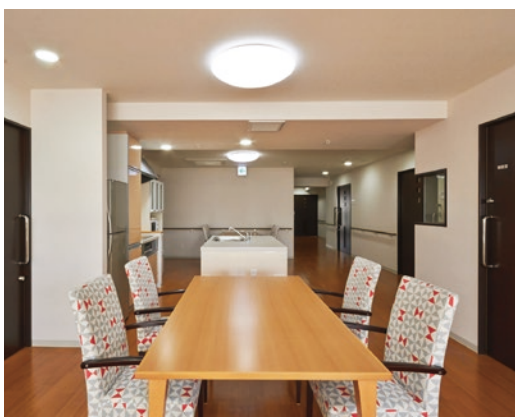
「高齢者住まい法」の改正により創設された、介護・医療と連携し、高齢者の安心を支えるサービスを提供するバリアフリー構造の住宅です。この制度は、高齢者が安心して生活できる住まいづくりを推進するために制定されました。「サービス付き高齢者向け住宅 さくら」は、健康面に不安を抱える一人暮らしの方、将来の住まいに不安をかかえる方に、安心で快適な住環境をご提供します。



居室



玄関



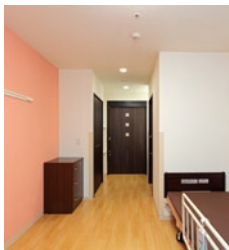
共有スペース

介護付き有料老人ホーム 鶴見緑地



ゆっくりくつろげる“我が家”

「介護付き有料老人ホーム鶴見緑地」は、人のぬくもりとやさしさを感じていただけるホームです。お一人お一人を大切にし、心のこもったサポートで入居者さまの暮らしをお手伝いいたします。近隣には、鶴見緑地公園など緑豊かな公園もあり、ゆっくりとくつろいでいただける“わが家”です。また、徒歩1分のところには、関連施設の鶴見緑地病院があり、介護だけでなく、医療面でも安心して過ごしていただけます。



居室



桂施設長(右)と早浪事務長



浴室



ロビー

清水会の沿革

昭和50年 1975年	3月	ミズノ胃腸科内科外科診療所(大阪市旭区)開院
昭和55年 1980年	12月	鶴見緑地ミズノ胃腸科内科外科診療所(大阪府守口市)開院 19床
昭和57年 1982年	12月	鶴見緑地ミズノ胃腸科内科外科病院(大阪府守口市) 62床
昭和58年 1983年	2月	信愛水野鶴見緑地病院 名称変更
昭和60年 1985年	4月	医療法人 清水会を設立 医療法人 清水会 鶴見緑地病院に名称変更
昭和62年 1987年	5月	医療法人 清水会 鶴見緑地病院 病床増設 151床
平成9年 1997年	2月	トム・ソーヤ訪問看護ステーション開設
平成10年 1998年	7月	医療法人 清水会 老人保健施設 おひさま園開設 91床
平成12年 2000年	4月	医療法人 清水会 介護老人保健施設 おひさま園と名称変更(介護保険制度開始) 医療法人 清水会 鶴見緑地病院居宅介護支援センター開設 医療法人 清水会 鶴見緑地病院訪問介護センター開設 医療法人 清水会 介護老人保健施設 おひさま園居宅介護支援センター開設 医療法人 清水会 介護老人保健施設 おひさま園訪問介護センター開設 医療法人 清水会 ミズノ胃腸科居宅介護支援センター開設
平成13年 2001年	1月	鶴見緑地病院改築に伴い 病床変更 143床 医療法人 清水会 鶴見緑地病院通所リハビリセンター開設
	3月	医療法人 清水会 訪問入浴センター開設
平成15年 2003年	3月	社会福祉法人 清水福祉会設立
平成16年 2004年	4月	社会福祉法人 清水福祉会 特別養護老人ホーム さくら苑開設 130床 社会福祉法人 清水福祉会 養護老人ホーム さくら苑開設 50床 社会福祉法人 清水福祉会 さくら苑 居宅介護支援センター開設 社会福祉法人 清水福祉会 老人デイサービスセンター旭東地域在宅サービスステーション旭さくら苑開設 旭東地域在宅サービスステーション開設(在宅介護支援) さくら苑診療所開設
平成17年 2005年	2月	社会福祉法人 清水福祉会 清水訪問介護センター守口開設
	4月	さくら苑配食センター開設(大阪市・守口市委託事業)
平成18年 2006年	4月	医療法人 清水会 介護予防事業開始(居宅・訪介・訪看・通所・訪入・短期・訪リ) 社会福祉法人 清水福祉会 介護予防事業開始(居宅・訪介・通所・短期) 守口第6地域包括支援センター開設
	9月	医療法人 清水会 訪問リハビリテーション開設
平成19年 2007年	8月	社会福祉法人 清水福祉会 ケアハウス鶴見緑地開設 74床
平成23年 2011年	4月	清水会グループ 統括本部の設置
	8月	社会福祉法人 清水福祉会 さくら苑デイサービスセンター太子橋開設
	9月	社会福祉法人 清水福祉会 特別養護老人ホーム 城東こすもす苑開設(ユニット型) 81床 城東こすもす苑診療所開設
	11月	社会福祉法人 清水福祉会 特別養護老人ホーム 鶴見緑地苑開設(ユニット型) 87床 社会福祉法人 清水福祉会 鶴見緑地苑居宅介護支援センター開設 社会福祉法人 清水福祉会 鶴見緑地苑デイサービスセンター開設 鶴見緑地苑診療所開設
平成24年 2012年	12月	社会福祉法人 清水福祉会 サービス付き高齢者向け住宅さくら開設 17床
平成25年 2013年	1月	医療法人 清水会 森小路清水会クリニック開設(人工透析) 31床
平成26年 2014年	4月	社会福祉法人 清水福祉会 介護付き有料老人ホーム鶴見緑地開設 90床

1975 >>>> 2015



あとかき

平成27年が、清水会の原点である「ミズノ胃腸科・内科・外科診療所」が開設されてより、40周年の佳節に当たることから、「40周年史」発刊が企画されました。一昨年秋から編纂作業を開始しましたが、不慣れな作業であることから、創成期の写真収集や、往時の診療記録収集など、困難にぶつかることもありました。

取材を進める中で、水野進初代理事長や水野信子第二代理事長の活躍が、熱い口調で語られる様子を通して、お二人の二人三脚の戦いがあり、今日の清水会グループの強固な基盤が築かれたことに深い感動を覚えしました。また、20年、30年と清水会一筋に勤めてきた職員の方々から、さまざまな変革の節目に立ち会ってきた思い出話を聞く中で、草創以来の“清水会スピリット”が深く命に刻み込まれていることにも心を打たれました。

医療法人清水会、そして社会福祉法人清水福祉会から成る、大きな「清水会グループ」を構成するに至った現在、理事長のあいさつの中にもある通り、地域に密着した清水会、地域に愛される清水会として、ますますその使命と責任が重くなっていることを痛感します。そのような思いを込めて編纂を進め、完成を見た小誌です。ご高覧頂ければ望外の喜びです。

最後になりましたが、編纂にあたり、ご協力を頂きました関係各位の皆さまに編集スタッフ一同、心から御礼申し上げますとともに、ますますのご健勝ご活躍をお祈り申し上げます。

40周年記念誌 制作委員会

委員長 楠本 修
委 員 三谷 征司
高橋 朗
田中 昭義
廣川 忠仁

40th Anniversary

清水会グループ

医療法人 清水会

- 鶴見緑地病院
- 鶴見緑地病院通所リハビリテーションセンター
- 鶴見緑地病院居宅介護支援センター
〒570-0044 守口市南寺方南通3-4-8
- 介護老人保健施設 おひさま園
- 介護老人保健施設 おひさま園通所リハビリテーション
- 介護老人保健施設 おひさま園居宅介護支援センター
- 介護老人保健施設 おひさま園訪問リハビリテーション
- 医療法人清水会訪問介護センター
〒535-0021 大阪市旭区清水2-1-21
- ミズノ胃腸科・内科・外科
〒535-0022 大阪市旭区新森3-3-31
- 森小路清水会クリニック[人工透析]
〒535-0022 大阪市旭区新森3-3-24
- トム・ソーヤ訪問看護ステーション
〒535-0022 大阪市旭区新森3-3-31
- 鶴見緑地病院橋波リハビリセンター
- 橋波訪問介護センター
- 橋波居宅介護支援センター
〒570-0039 守口市橋波西之町2-4-19
平成27年12月1日 オープン予定

社会福祉法人 清水福祉会

- 特別養護老人ホーム さくら苑
- 養護老人ホーム さくら苑
- 老人デイサービスセンター旭東地域在宅サービスステーション旭さくら苑
- さくら苑居宅介護支援センター
- 旭東地域在宅サービスステーション旭さくら苑(在宅介護支援)
- さくら苑診療所
〒535-0021 大阪市旭区清水3-15-23
- ケアハウス 鶴見緑地
〒570-0044 守口市南寺方南通3-4-16
- 特別養護老人ホーム 城東こすもす苑
- 城東こすもす苑診療所
〒536-0016 大阪市城東区蒲生2-2-38
- 特別養護老人ホーム 鶴見緑地苑
- 鶴見緑地苑デイサービスセンター
- 鶴見緑地苑居宅介護支援事業所
- 鶴見緑地苑診療所
〒570-0032 守口市菊水通3-16-2
- サービス付き高齢者向け住宅 さくら
〒535-0022 大阪市旭区新森3-3-31
- 介護付き有料老人ホーム 鶴見緑地
〒570-0043 守口市南寺方東通1-1-31
- さくら苑デイサービスセンター太子橋
〒535-0001 大阪市旭区太子橋2-8-31
- (仮称)小規模多機能型居宅介護 さくら
平成28年9月 オープン予定